

KJ法による教職員のグループ検討

第2回教育検証プロジェクト会まとめ

第2回の教育検証プロジェクト会は全職員の参加により、7つの小グループに分かれ、調査資料をもとにKJ法により卒業生の就労や生活に見られる課題等についてディスカッションをした。

出された内容等は概ね下記のとおりであるが、これは課題別に整理して主なものを記したものである。

1 働く意志、仕事の適性・能力等について

- 働く意志の強さや忍耐力が十分に備わって人がいる。
- 給料が安いとすぐに転職を考える人もある。
- 少々嫌なことでも進んでしようとする気持ちがほしい。
- 少々仕事に慣れてくると、仕事の手を抜いてしまう人もいる。
- 自分のペースと職場に求められているスピードとのギャップがある人もいる。
- 3年次に選択した職種と就職先での職種は必ずしも合致していない。約半数はマッチングできていないのが現状である。
- 3年次に選択した職種と就職先での職種が合致していなくても、きちんと就労しているケースもある。
- 時間・スピードに関する意識に弱さがある人もいる。
- 複数の指示や依頼に混乱する人もいる。
- 本人のこだわりが強く、仕事が自己流になってしまう人もいる。
- フルタイムで長時間働く体力が十分に備わっていない人もいる。

2 対人スキルに関すること

- 相手に伝える力や話す力が十分に育っていない人もいる。
- 報告・連絡が十分にできていない人もいる。
- 理解していない場合でも「はい、分かりました。」と言ってしまうことがある。また、自分の考えや意見が言えない人もいる。
- 依頼されたことを正確に把握することが十分にできない人もいる。
- 敬語が正しく使えない。言葉遣いにも課題が見られる。
- 休むと勤務先に迷惑がかかる等、相手のことが十分に考えられない人もいる。

3 相談できる場・人の存在及び自分の心のセルフコントロールについて

- 厳しく指導する人、共感的に話を聞いてあげる人の存在が大切である。
- 専門的な相談を受けること場（機関等）を知っておくことが大切である。

- すぐに落ち込み、休んでしまう人もいる。
- 打たれ弱く、気持ちの切り替えがうまくできない人もいる。

4 社会人としてのマナーについて

- 社会人としてのマナーやルールが守れない人もいる。
- 素直に自らを反省したり、相手の立場を理解する力に弱さが見られる人もいる。
- トラブル等についての対処法が分からない人もいる。

5 余暇の過ごし方について

- 余暇の過ごし方が確立されていない人が多い。
- 家にこもって、過ごす人が多い。

8 企業、関係機関、保護者等との連携について

- 企業等に伝えている卒業生の情報等が不十分で、企業等の対応が十分にできていないケースもある。
- 様々な関係機関等との連携を一層強化し、生徒へのサポート体制を構築することが重要である。
- 保護者とは、在学時から生徒の障がいや支援のあり方について、十分に共通理解しておくことが大切である。

9 今後の学校教育について

- コースの種類（職種）やコース選択の学年進行のあり方については、今後検討が必要である。
- 教職員がもっと現場を理解し、日頃の学習の中に職場の空気を入れていくことが必要である。
- 生徒の夢や希望を大切にしながらも、どの段階で現実を提示していくのかこのことも重要な問題である。
- ソーシャルスキルに関する学習や困った時の対処法を学習の中に取り入れていく必要がある。
- 在学時から様々な情報の仕入れ方や取捨選択のしかた等を学ばせる必要がある。